

地区復興まちづくり便りへの意見等

※○番号は第 1 回資料で紹介したものの再掲です。

■検討会の進め方・メンバーについて

①	情報提供と一人一人の意見を大切にしていきたいと思います。	(70 歳代 女性)
②	これからも大いに情報提供と意見募集をして下さい。	(70 歳代 男性)
3	それぞれの地区の被害の現況は違いますので各地区の意見が身近な所で討議される事は大変良い事と思っております。	(70 歳代 女性)
4	行政からの提言だけでなく、宮古市民の共同参加として共に知恵を出し合い、力を結集して意見を集約し、県内一住み良いまち、そして、大震災以上の宮古市となるよう期待しています。	(60 歳代 男性)

■道路の嵩上げについて

①	今、現在は、仮設住宅に住んでいます。家は 1.8m 以上浸水しました。いずれ自宅を修理して住む予定です。よって、旧国道を嵩上げするというパターン A には反対です。	(70 歳代 女性)
②	津波での被害は 2m 浸水しました。屋根と柱が残ったので、嵩上げをして修理して住んでいます。よって、復興パターンの案は、パターン B の方に賛成します。旧国道を嵩上げするという事は納得しかねます。	(70 歳代 男性)
3	当地区の復興パターン案が A 案と B 案がございましたが、高浜地区の市道上下の皆様はすでにリフォームして住んでおりますので B 案の通り市道の嵩上げは必要ないと思います。	(70 歳代 女性)

■今後の住まいについて

①	アンケートの時は、もとの場所に住みたいと答えました。しかし、時がたってくると、高台へ住みたいと考えが変わりました。なぜなら、命だけでなく財産はもう波でぬらしたくないからです。浸水した住宅は、今でもヘドロの臭いがします。今夏は、住宅の中から白アリも出ました。浸水した住宅は高台へ移転して住み直して孫の代へ引継ぎたいです。	(50 歳代 女性)
②	高浜に多いにマンションが出きたら良いと考えている。	(70 歳代 女性)
③	高浜地区の移転先には高齢者の為に、グループホームとか老人ホーム等もあればいいと思います。	(80 歳代 男性)
④	高浜地区は、道路の辺りは漁業の仕事場と畑など市民への農地にする一戸建ての市営住宅は、高台へ作り、バス停も移動してほしい。日当たりの良い 3 区の高台。	(50 歳代 女性)
5	浸水して住宅は修繕して住んでいるが、チリでも流され二度津波にあっている。もう住宅は津波では被害にあいたくない。仕事場は、同じでも住む所は高台が安全だと思う。高台へ移転したいと思う。	(50 歳代 男性)

■避難所等について

1	当地区は高台が背後にありますので避難ビル等は必要ないと思います。今回避難場所として指定された金浜のセンターは遠く、高齢者の方々は移動が出来ませんでしたので、身近な所に避難所と多目的ホールを備えたセンターを早急に整備してほしいと思います。	(70 歳代 女性)
---	--	------------

■防潮堤について

①	第一番に後世に悔いのない為（孫・曾孫に）防潮堤を市海岸全体に高くする。海拔 13m 以上とする、宮古は他市より防潮堤が低いようです、国・県に強く要望すること。	(70 歳代 男性)
---	---	------------